

〔女重寶記五 女用器財〕匣盤みたらひ

〔和漢三才圖會二十五 容飾具〕盥盥略

按有耳盥角盥之二種、俗以耳盥稱半插者誤也、凡洗面曰盥音類、

〔女用訓蒙圖彙二〕一御厨子黒棚の役は、小上臈の役なり、けまやうのまのかざり、一番にみ、だら

ひ、わたしがね、二にてうづだらひ略

同御厨子黒棚かざりの事

一御厨子棚は、床の左にかざるべし略

同中の棚略 左はみ、つのだらひ略 下置略 だらひつゆがえしを前にして、中にゑ長のゆたう、

略

〔細純集〕御産所之式

御耳盥 一ツ

〔筆の靈前篇三十〕手水の事

又今常につかふ耳だらひと云具も、角だらひと同じ意にて、其耳を持つを便としたる物なり、角だらひのや、轉りたる物と云べし、黒ぬりの耳盥にて嗽茶碗に湯水を入たるを内に置て持出、客に手を洗はしむるは、全く古の半插角盥の意に違はず、然るを金にて造りて鐵漿なる具とのみすれど、其具は昔はかねはきと云物を用ひしにて別なり、嫁入之記に、かねはきとて、常の御たらひみ、だらひなどのやうの物、つのも耳もなく黒ぬりにこしらへたる物なりとあり、角だらひの耳だらひになれる事は、角の長くて物にかゝりてくつがへる事などの多きを愁ひて、手かくる所のみを設たるが、耳だらひなり、嫁迎之事と云書に、御つかひ候はんはんざうだらひ、又はおほせがきの硯箱あしあらひ、耳盥とあり、